

寿

100歳 おめでとうございます



石原ハツエさん (唐池)

3月28日に100歳の誕生日を迎えられました。手芸が得意で、これまで作った刺繍や人形などの作品で家の中はいっぱいです。日課の編み物では、座布団カバーや家族の服などを編み、現在はソファカバーを作製中。これから使う予定のたくさんの毛糸玉を広げながら、「何かしていないともったいない」と話していました。



栗山光子さん (八幡台3丁目)

3月28日に100歳の誕生日を迎えられました。神戸出身で、昔は貿易商社や百貨店で働くシティガールでした。結婚を機に九州へ移り、60代からは油絵や社交ダンスなどに再挑戦。中央公民館の万年青大学には90歳を過ぎても通い、25年の表彰を受けました。周りからは「生き方の目標」と言われ、それが本人の励みにもなっています。

2/8

埋もれた荒尾の歴史を掘り起こす  
～第8回荒尾市史講演会～

参加者たちは講師の話に熱心に耳を傾けていました。



8回目となる今回は、猪飼隆明大阪大学名誉教授と大牟田市立三池カルタ・歴史資料館の梶原館長を講師として、宮崎家の親戚で八郎とともに西南戦争にも参加した一木斎太郎という人物の面白さや、近代三池炭鉱の発展の前提条件として、江戸時代の荒尾・大牟田の石炭活用があったことなどが講演されました。

あまり知られていない荒尾の歴史に、参加者からは「大変興味深く、地元を知る意味で良かった」との声が聞かれました。

2/13

荒尾の海苔っておいし～！  
～給食に海苔が登場～

おいもいおいの食べ方で郷土の恵みを堪能しました。



市内の全小中学校の給食に、地元産の海苔が登場しました。この海苔は、2月6日の「海苔の日」にちなみ、地元特産の海苔のおいしさを子供たちに味わってほしいと荒尾漁業協同組合と熊本北部漁業協同組合により寄贈されたものです。海苔の日は、1966年(昭和41)年に、海からの贈り物である海苔に感謝しようと制定されました。

一人に一枚の大きな海苔が配布されると、子どもたちはご飯に巻いたり、そのままの海苔を味わったりと海苔のおいしさを楽しみました。

僕らのまちの  
学校通信  
～地域の皆さんにお届けします～  
今日は「一小」からのお便りです

地域と共に歩む 荒尾第一小学校

子どもたちの学びを地域住民、保護者、教職員が協働で支える「地域学校協働活動」の活動の一部を紹介します。



2年 ひまわりプロジェクト  
阪神淡路大震災に由来するひまわりを育てることで、子どもたちの豊かな心を育てています。地域や学校運営協議会の皆さんの協力をいただき、採取されたひまわりの種はさまざまな被災地に送られ、荒尾第一小学校のひまわりとして芽吹いているそうです。

4年 クリーン作戦

地域ごとに分かれて、地域や保護者の皆さんと一緒にごみを拾います。最初は少なく感じるごみですが、拾っていくと目立たないところにたくさん落ちていることに気づきます。



ごみを拾った後は、みんなでごみのない一小校区にするにはどうすればよいかを考えています。



6年 音と光の祭典

毎年9月に行われる音と光の祭典は、一小校区元気づくり委員会が主催するイベントで、今年で15回目を迎えます。子どもたちは、祭りの運営に参加するために、事前に宮崎兄弟について知りたいことを自分たちで考え、現地学習を行います。祭典当日は、進行やマルシェ運営などに携わっています。

これからも地域と共にあるコミュニティ・スクールとして、荒尾市の明るい未来に貢献する子どもたちの育成を目指していきます。

ハイ！ スクール通信  
High School communication  
- 市内高校通信 - Vol.16

岱志高校、有明高校、荒尾支援学校の市内3つの高校の取り組みや学生たちの様子などをお届けします。地元高校の新たな魅力の発見につながるかも！

有明高校から2つのトピックスをお届けします

職場体験



2月上旬に最大4日間、荒尾・玉名・大牟田地区で40の事業所の協力をいただき、生徒の職業観や社会性を育むための職場体験を行いました。生徒たちは、普段机上では学ぶことができない経験を、今後の生活に生かしていきたいと話していました。

協力いただいた事業所の皆さんには大変お世話になりました。

Topics1

卒業式



3月2日に体育館で卒業式を行いました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、卒業生、保護者、教職員のみでの参加で、縮小した形での式典でしたが、卒業生にとっては新たな門出となる大切な時間となりました。これから社会に出る人、学びや見聞を広める人、プロや実業団の世界で勝負する人など、すべての生徒の今後の活躍を心から願っています。

Topics2